

金曜コラム - 平和大行進

イ・ジェヨン(2018 日本の平和大行進参加者)

約 23 日間の平和大行進と 2 日間の世界平和大会がすべて終わり無事に帰国した。平和大行進は日本全域で 11 のコースがあり、戦争のない平和な世界、原子爆弾と水素爆弾そして原子力発電所をなくすために歩く行進だ。私は沖縄・広島と長崎・広島コースが会う福岡から一緒に歩いた。このコースは、北九州から宮崎・広島コースと合流しながら、最終的には本州で 3 つのコースが一つになって移動した。私は沖縄・広島コースの竹田さん (7.13~8.4)、長崎・広島コースの島田さん (7.13~8.4)、私より 2 日前に合流した台湾人シェン (7.13~8.4)、北九州で合流した西田さん (7.18~8.4) と、山口県内を案内して下さった横井さん (7.20~8.2) と一緒に行進をした。この 5 人以外では各地域で一日または半日を一緒に歩く人と一緒に歩いた。ある団体の人であるとか、職場から一緒に参加している人がほとんどだった。

福岡県では本当にすべて歩いて移動した。最も長く歩いた日は合計 28km を歩いただけに、かなり大変な日程であった。福岡県とは異なり山口県では、車での移動をたくさんした。ある程度の村が比較的近い距離にある福岡県とは異なり、山口県は町と町の距離があって車で移動をしてその町の方々と挨拶を交わし、その周辺を行進する方式であった。これらの日程のおかげで、一日に歩く距離はそんなに長くなかった。山口県では最も多く歩いた日が 18KM で比較的短かった。平均的には一日に約 15km ほど歩いた。平均気温は約 35 度から 36 度であり、最も暑かった日は 40 度に近かった。歩くのは 20km を超えない限りそれほど大変ではなかったが、天気がとても暑くて大変だった。基本的に朝と夕方でも 30 度以下に落ちなかったし、風が吹かないと熱せられたアスファルトと太陽の光を両側から受けて歩かなければならなかった。

ホテルはその地域の執行委員の方々が予約をしてくれて、主にシングルだったが 2 人部屋や 3 人部屋、または 4 人部屋である時もあった。幸いなことに男女は別々の部屋を与えられた。ご飯も同様にその地域の執行委員の方々が準備された通り食べた。本当に高価なコース料理からコンビニ弁当まで多様に食べた。一日の気分が通常、この二つに起因して決定された。どんなホテルが与えられるか、どのようなご飯を食べるのかといった、最も基本的なことによって一日の気分が左右された。

残念だった点は日程がどうなるのか、どこまでいくのか、一つも分からないまま行かなければならなかった点である。もちろん、最初に福岡県の日程表を受け取ったが、日程表を見ても日本語で書かれていて理解に苦労し、どの時間に何をするのかちょっと判りづらかった。だから日程に慣れたり、一緒に歩く竹田さんや島田さんに聞いてみるしか方法がなくて不便だった。ホテルがどこなのかも書いていない場合があったし、世界平和大会に行つては本当にひどかった。どんな行事があるのかさえ分からなかったし、ただ竹田さんの後ろについて行くことしかできなかった。行事に参加するようと言われても、どんな行事なのか、どの程度の規模なのかも分からないまま参加した。だから約 600 人の日本青年の前で適切に準備もできず 5 分間のスピーチをしたこともあった。また、世界平和大会が規模の大きな行事なので若い青年たちもたくさん参加しており、世界各国の青年たちが一緒に参加することができる行事であったにもかかわらず、そのような行事があるという事実さえ教えられなくて行ってみる事ができなかった。次からはスケジュールを少し教えてもらい選択権を与えてもらえたらと思う。

残念な点と大変な点があったにもかかわらず、非常に満足した1ヶ月であった。規則的な生活をするのができたし、本当に様々な人とお会いすることができた。韓国について紹介することができ、様々な日本の文化を肌で触れることができた。韓国にいたらすることができない経験をするのができたし、普段考えたことのない問題について考えてみるのができた。原子爆弾について調べ勉強することができたし、日本の人々がこれに対してどう思うか聞くことができた。これは本当に簡単な問題ではないことを学び、この問題を解決するために多くの人々が努力をしておられることを学んだ。最初は大きな考えもなく参加したが、参加してからは本当に多くのことを考えられる機会となった。

01 国民日報 2018.8.13 【 ジョン・ユラに押されたあの選手、「金馬」に挑戦 】

金ヒョク(23)は、2014年仁川アジア大会馬術代表選抜戦で釈然としない判定で、4位に上がったジョン・ユラに押されて5位に脱落しました。ジョン・ユラは競技中、複数回のミスをしたが減点されなかった疑惑が浮上し、特別待遇選抜の論争を引き起こした。

それに先だって金ヒョクは前年度、慶尚北道サンジュで開かれた全国乗馬大会でジョン・ユラを破って優勝しましたが、これは韓国社会を揺るがした巨大な暴風の前兆でした。その大会で2位となったジョン・ユラの母チェ・スンシルは結果に怒ったあまり、パク・クネ前大統領の権力を背景にして、当時の警察や文化体育観光部などを動員して採点者を調査して乗馬協会を監査するようにするなど、越権行為を欲しいままにしました。金ヒョクの優勝とアジア大会脱落は2年前に全国を強打した「チェスンシル国政壟断」の始まりになったわけです。

金ヒョクは代表選抜戦に脱落后、悔しさで一ヶ月間の手綱を置いて馬を見る事も無かったと言います。金ヒョクは13日、国民日報とのインタビューで「乗馬をやめようかも考えたが、結局もう一度やりたくなったんです」とし、「次回は確実に1位になると心に決めた」と言いました。

金ヒョクは決意通り2018ジャカルタ・パレンバン、アジア大会代表選抜戦で1位となり堂々と最初に太極マークを掲げ、団体戦と個人戦で金メダルを狙っています。金ヒョクは「4年間一生懸命に準備した。ミスさえしなければ金メダルを取ることができると考えている」と自信を示しました。

若い年齢でぶつかった試練を乗り越えられたのは強い勝負欲のおかげです。金ヒョクは「子供の頃から大会で1位にならないと眠れなかった」とし「国家代表脱落がもっと熱心にしなければという原動力になった」と打ち明けました。金ヒョクは一日中6~7頭の馬に乗って乗馬感覚を身につけました。

金ヒョクは2年前からアジア大会金メダルを目指して11歳の馬「ワールド・デガス」と一緒に呼吸を合わせてきました。金ヒョクは「デガスは疲れても簡単にあきらめない。私を信じて応じてくれるという感じがする」と話した。

金ヒョクが出場する馬場馬術は、乗馬種目のなかで芸術性が際立つ種目です。長さ60m、幅20mの平坦な馬場で定められたコースに沿って演技を展開するが、馬と人が一つになって調和して動くことが重要です。金ヒョクが一番得意な技術はバレエをするようにリズムカルに所定の位置でターンをする「ピルエット」です。

馬場馬術はアジア大会で韓国の目玉種目です。韓国は1998年バンコク・アジア大会から5回連続団体戦・個人戦で金メダルを独占しました。それだけに優勝しなければならぬ本命だという負担が少なくありません。

一方、今回の代表チームの環境はあまり良くありません。チェ・スンシル国政壟断事態以後、大きな打撃を受けた乗馬協会の会長が引き続いて変わり、行政空白が大きかったです。乗馬代表チームがアジア大会に出場できないという噂が出るほどでした。

悪条件の中でも金ヒョクは自信を失いませんでした。金ヒョクは「状況は良くないが、協会と両親をはじめ、周辺の方がとても助けてくれた」とし「チームワークも最高だ。緊張せずに取り組みたい」とじっくり話しました。金ヒョクは20日に馬場馬術団体戦を、21日と23日には個人第1戦・最終戦を戦います。

乗馬界の問題を指摘してきた'共に民主党'アン・ミンソク議員は「悲運の選手だった金ヒョクのアジア大会出場とメダル獲得で、乗馬の積弊清算のきっかけとなることを願う」と希望しました。紆余曲折の末、長い道のりを歩んだ金ヒョクが韓国乗馬の看板に生まれ変われるか注目されます。

<https://sports.v.daum.net/v/20180813185700429?d=y>

02 スポーツ朝鮮 2018.8.14

【 プロ選手の兵役解放区は停止、代表チーム立て直そう 】

これ以上、国際大会がプロ選手の兵役逃れの解放区として利用されてはならないでしょう。特段の措置が必要です。

紆余曲折の末、ジャカルタ・パレンバンアジア大会の野球代表チームのエントリが確定されました。代表チームのソン・ドンヨル監督は13日、4人の選手を交代して24人のエントリを確定しました。パク・コンウ（斗山ベアーズ）チェ・ジョン（SKワイバーズ）チャ・ウチャン、ジョン・チャンホン（以上LGツインズ）が抜けて、イ・ジョンフ、チェ・ウォンテ（以上ネクセン・ヒーローズ）ファン・ジェギョン（KTウィズ）ジャン・ピルジュン（三星ライオンズ）が新たに加わりました。

話題も多く難癖も多い今回の代表チームです。国際大会が開かれるたびに、ある選手が選ばれ、ある選手が選ばれない事についての甲論乙駁（訳注：こうろんおつぱく 甲が何か述べると、乙がそれに反対するというふうに、議論がいろいろ出てまとまらないこと。）があったが、今回のソン・ドンヨルひいき状況は過去最悪と言っても過言ではありません。野球の専門家ではない一般のファンが見ても原則からはずれた選抜に見える点に、反対意見が出てきて当然です。また、大韓民国はどの国よりも兵役義務について敏感な国なので、この部分で気持ちを逆なですると、国民の支持を得ることができません。

オリンピックで銅メダル以上、アジア大会で金メダルを獲得した場合、兵役恩恵を受けます。時間がお金であるプロ選手たちの立場では、死活をかけざるを得ないミッションです。ところが、一日暮らす忙しい国民の立場では、そうでなくとも数億ウォンの年俵を受けるプロ選手たちの軍隊の恩恵まで渡そうとしてこのような議論を繰り返すこと自体、乖離を感じます。また、兵役未了時は太極マークの熱望を表して軍の問題を解決したら、国家代表チームを煩わしく思い、適当にプレーする選手たちの姿を見て裏切られたと感じるまでです。失名まで言及することはできませんが、これまで現場で「トイレに入る時と出てくる時で違う」態度を見せる選手を何度も見てきました。記者である前に一人の国民として失望感が大きかったです。

●むしろ国際大会に参加する代表チーム選抜基準をパツと変えてみたらどうだろう

金メダルが当然視され、相手国の戦力が急に落ちるアジア大会に出場するためにプロリーグが18日間休むこと自体がナンセンスです。どうせ兵役問題の議論が消える可能性はないので、むしろ兵役恩恵を得られる若い選手たちだけでチームを作るのが良いとも言えます。もちろん、リーグ日程は続けるという条件で、で

す。もし、代表に選抜された選手がチームの主力選手で到底送り出せないとなれば、拒否権を球団に与えれば良いのです。その選手のほかにアジア大会に行きたい選手は列に並んで各球団が選択をすることにします。それなりの投資概念です。シーズンの戦力弱体化を甘受して未来を見るか、それともそのシーズンにオールインするかを球団と選手が決めれば良いのです。

あるいは、最初からアマチュア選手としてチームを構成することです。特に最近、大学野球存廃の危機の話がたくさん出ており、最初から大学の選手たちを中心にチーム構成をすることも大丈夫と思われます。こうなると、大学野球選手のモチベーション、大学野球への資源流入可能性の拡大を期待することができます。また、プロチームも兵役恩恵を受けた選手がいる場合は前のランキングで選択をする可能性が高くなるので、相方が良いです。高卒選手やプロ選手たちの利益の問題を言うと、高卒の選手たちは早くからプロの世界に飛び込んで確保できる利点があり、プロの選手はプロ選手として取ることができる利点に焦点を当てれば良いです。

この方法は金メダルへの執着から離れた時に実現可能です。現実には「国民が金メダルを求める」と言えますが、最近のスポーツを見る国民の気持ちはとても寛大になっています。必ずしもメダルを取れなくても最後まで最善を尽くす選手たちに拍手を送るし、メダルが取れないと「売国奴」扱いされる時代は過ぎたという意味です。また、国際大会で不振だとプロ野球の人気落ちるという心配をする時期も過ぎました。KBOリーグは十分自生力を備えて成長しました。

4年後のアジア大会もそうですが、2020年の東京オリンピックに合わせて果敢な決定を試みるのが良いでしょう。ソン・ドンヨル監督に金メダルの圧力ばかり与えなければ意外に簡単に解ける問題です。もちろん、野球人が後輩のことを考えると行ってプロ選手の兵役問題のみに執着すると問題は原点に回帰します。

<https://sports.news.naver.com/kbaseball/news/read.nhn?oid=076&aid=0003300032>

03 フットボールリスト 2018.8.17

【「監督・ベント」ではなく「チーム・ベント」選任の意味】

パウロ・ベント監督だけを連れて来たのではなく、ベント監督と一緒にチームを連れて来たのは、どういう意味だろうか。

金パングン国家代表監督選任委員長は17日、ソウル鍾路区サッカー協会ではベント監督を選任したと明らかにしました。契約期間は「2022カタールワールドカップ」までです。注目部分は監督だけであるのではなく、コーチングスタッフ4人と一緒だということです。ヘッドコーチ、戦術コーチ、GKコーチ、フィジカルコーチと一緒に20日に入国する予定です。

監督ベントではなく、チームベントと契約したといっても過言ではありません。韓国代表では珍しいことですが、これは世界的には一般化されていることです。サッカーはますます複雑化しており、細分化された能力を持ったコーチを必要としています。監督が全体的な枠組みを受け持ち、コーチが各課題を解決した後に監督が再び意見を取りまとめて決定を下す形式で仕事を進めています。

ワールドカップと欧州サッカー連盟（UEFA）チャンピオンズリーグを優勝し、中国代表チームを率いるマルチェロ・リッピ監督もコーチ9人を同行しています。細分化された能力を持っており、自分が求めている哲学をよく知っているコーチがいてこそ自分が望むサッカーをすることができるからです。その中には前半が終わったらリッピ監督と戦術を相談する戦術コーチもいます。

金委員長は「(コーチングスタッフの)クオリティが重要である。どんな専門的なコーチを連れてくるのか、コーチを通じて確認することができた。大会準備の部分ですべて提出しろとしたことも検証しなかったからだ。映像、スケジュール、試合ミーティングなどすべてのが提出されたし、体力コーチもGPSデータをすべて提出した。本当に専門的に高いレベルのコーチングをしているという確信をした」と説明しました。監督個人も重要だが、現代サッカーでは、監督と一緒にコーチングスタッフの能力も重要です。良いコーチを連れていてこそ有能な監督と認められて良い成績を出すことができます。金委員長が監督と共にするコーチスタッフの能力まで見たあとに「レベルの高い指導をしているという確信があった」と言った点もそこにあります。

「今回来た方の一人は60代中ごろだったが、10年以上前に良い結果を出し、大きなクラブ経験のある方だった。コーチングスタッフが多有能なら(採用を)してみるべきと思ったがコーチングスタッフの履歴書で失望した。」

監督個人についての執着や過信は韓国が「2002韓日ワールドカップ」以来継続して外国人監督を選任しても成功しなかった理由の一つです。監督だけ重要であり、彼と共にするコーチングスタッフには大きな意味を置かないできました。`チーム`に帯同するという要求をする監督に芳しくない視線で見ることがもめました。

コーチングスタッフをチームとして使うなら、国内のコーチを活用するのも良いです。国内のコーチは彼らのサッカーに対処する方法を直接見ることができ、チームで働く姿まで間近見ることができます。あえて海外に指導研修に送らなくても良いコーチを近くで育てることができます。大金を使った分、得られるものは、得なければなりません。

ベントは韓国で契約期間をまっとうできるか、ワールドカップで成功できるかどうかは誰もわかりません。ただし監督ではなく、チームを選任したのは明らか進歩です。大韓サッカー協会が持つ視線が発展したと見ることができます。

<https://sports.v.daum.net/v/20180817171134023?d=y>

INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 1485-3 スンジョンビル 305号

체육시민연대 서울시 서초구 서초동 1485-3 승정빌딩 305호

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net

ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳 : 佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fgep@jarl.com